

2. 活動報告

- 平成22年 6月 9日 船の祭典2010共催事業・香川大学瀬戸内圏研究センターシンポジウムの開催
- 平成22年10月27日 香川大学瀬戸内圏研究センター学術講演会の開催
「海」、「文化・観光・歴史」、「医療」に関する研究者を招聘し、以下のとおり講演いただいた。
「クロマグロの完全養殖達成と将来展望」
 - ・熊井 英水 氏 近畿大学水産研究所教授「ICTを使った医療から、新しい医療へ：
戦略的防衛医療構想 Ver3.0 情報薬の開発」
 - ・辰巳 治之 氏 札幌医科大学教授「離島振興法と瀬戸内海島嶼」
 - ・鈴木 勇次 氏 長崎ウエスレヤン大学教授
- 平成22年12月 4日 香川大学瀬戸内圏研究センター講演会 in 塩飽本島の開催
- 平成23年10月19日 香川大学瀬戸内圏研究センター学術講演会の開催
「海」、「文化・観光・歴史」、「医療」に関する研究者を招聘し、以下のとおり講演いただいた。
「胎児期からの生活習慣予防-生活習慣病胎児期発症説-」
 - ・福岡 秀興 氏 早稲田大学総合研究機構客員教授「島が丸ごと博物館(ミュージアム)-持続可能な里海づくり-」
 - ・神田 優 氏 黒潮実感センターセンター長「有明海佐賀地先におけるタイラギ漁生産の歴史と現状」
 - ・古賀 秀昭 氏 佐賀県有明水産振興センター所長「海の「ゆりかご」藻場がはぐくむ瀬戸内海の魚たち」
 - ・小路 淳 氏 広島大学瀬戸内圏フィールド科学教育
研究センター 竹原水産実験所 准教授
- 平成24年 3月14日 香川大学瀬戸内圏研究シンポジウムの開催
平成22～23年にわたる瀬戸内圏研究成果について、広く一般の方へ紹介した。これらの成果内容については4. 平成23年度香川大学瀬戸内圏研究シンポジウム において詳述する。

瀬戸内圏研究センターの主要な役割に関する報告

行政、企業等との協議会および活動団体や地域住民からの意見を収集して新たな検討課題を発掘、それらを反映させるための施策の検討、セミナーやシンポジウム等の開催、研究成果の公開、行政、企業等との受託研究や共同研究の推進、瀬戸内圏研究に関する情報の収集とデータベース化を実施した。

(1) 学長戦略調整費による「瀬戸内圏研究プロジェクト」研究推進支援

本プロジェクト研究（海グループ：干潟を含めた浅海域の生態系研究、文化・観光・歴史グループ：瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造、医療グループ：瀬戸内圏における地域連携パスと生涯健康カルテ(EHR)ネットワーク構想）は平成20年より開始しており、平成22、23年度では各グループは下記研究課題に特化した研究を推進した。

平成22、23年度瀬戸内圏研究プロジェクト

研究課題名	研究代表者
・ 東部瀬戸内海の栄養塩異変の原因究明と 栄養塩管理及び対策	農学部 多田邦尚
・ 香川県内の主に東部島嶼地域の社会と文化の 変化に関する調査研究	経済学部 稲田道彦
・ 地域活性化総合特区～K-MIX を生かした安心の街づくり～計画への発展	特任教授 原 量宏
・ 瀬戸内圏研究プロジェクト推進支援	特任教授 本城凡夫

(2) セミナーやシンポジウム等の開催、研究成果の公開

2. 活動報告で記すシンポジウム、学術講演会等を開催し、意見交換を通して、行政・研究機関、企業、活動団体や地域住民等からの情報を幅広く収集し、シンポジウム、書籍（「島へ行こうよ」、「瀬戸内海観光と国際芸術祭」）、および年度報告書を作成して、社会に成果を還元した。

(3) 行政や企業等との地域連携による受託研究や共同研究等の実施

香川県が実施する「香川県ふるさと雇用再生特別基金事業」（平成20年度採択）により、香川大学瀬戸内圏研究センター情報拠点機能強化推進事業を継続した。

(4) 瀬戸内圏研究に関するデータベースの作成、様々な情報の集積、分析および発信

ホームページを開設した。今後、ホームページからのダウンロードにより、データベースから起草された総説が閲覧できるように作業中である。